

Actions on Sports

ASEAN
JAPAN



Gender Equality

スポーツを通じたジェンダー平等推進事業

**ASEAN-Japan Actions on Sports:
Gender Equality**

成果報告書

目次

1. 事業内容

背景と趣旨	1
対象国・地域及び国内の対象者・地域の課題とニーズ	1
事業期間及び今年度の歩み	2
実施体制	3

2. 今年度の事業目的と概要

3. 実施報告

事業1	
ASEAN事務局との連携強化と戦略立案	5
事業2	
世界女性スポーツ会議への参加とASEAN諸国と連携したプレゼンテーション機会の創出	6
事業3 タイ政府のアクションプランのフォローアップ	
事業4 タイの若年女性リーダーシップのフォローアップ	
ワークショップ概要	10
事業3	
タイ政府のアクションプランのフォローアップ	
「スポーツ関係者向けのワークショップ」報告	12
事業4	
タイの若年女性リーダーシップのフォローアップ	
「若年女性リーダー向けのワークショップ」報告	14

4. 今年度の成果と次年度以降への期待

本報告書は、独立行政法人日本スポーツ振興センターの再委託事業（スポーツ庁委託事業）として、学校法人順天堂 順天堂大学が実施した令和4年度ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業「スポーツを通じたジェンダー平等推進事業」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には独立行政法人日本スポーツ振興センターの承認手続きが必要です。

1. 事業内容

背景と趣旨

スポーツを通じた国際協力において、ジェンダー課題への取組は重要な分野の一つとされています。

2017年にロシアのカザンで開催された、UNESCO主催の「体育スポーツ担当大臣等国際会議(MINEPS) VI」では、「カザン行動計画」が合意され、SDGs ゴール5「ジェンダー平等」の達成に資するスポーツの役割も強調されました。こうした、国際的な潮流を踏まえて、日本政府は、東南アジア諸国連合(以下、ASEAN)と連携を強化し、2017年に行われた「第1回日ASEANスポーツ大臣会合」において、「女性スポーツ実施率の向上」を含む4つの領域を重点分野とすることが合意されました。さらに2019年には「第2回日ASEANスポーツ大臣会合」と併せて「日ASEAN女性スポーツ会合」が発足。日本がASEAN諸国のスポーツを通じたジェンダー平等推進を協働していくための政策対話枠組みもできました。

こうした流れを受け、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)期間中である2021年8月10日～13日に、スポーツ庁とASEAN事務局が主催となってJAIF(日ASEAN統合基金)により、「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」が協働の具体的なアクションとして開催されました。スポーツにおけるジェンダー平等を促進するために行われたこのワークショップでは、以下の2つの目的を達成することが掲げられました。

- ASEAN地域における女性と女児のスポーツ参加を促進するためのASEAN各国のアクションプランを策定する
- スポーツを通じたライフスキル・リーダーシップトレーニングを実施し、ASEAN各国の若年女性のエンパワーメントを図る

順天堂大学を配信拠点とし、ASEAN10か国から選ばれた70名がオンラインにて参加。ASEAN地域における女性スポーツの発展とスポーツを通じたジェンダー平等社会の実現を視野に入れ、ASEAN加盟国の政府関係者や、国内オリンピック委員会(NOC)の女性スポーツ委員会メンバー、若手の女性スポーツリーダーたちがオンラインで一堂に会し、活発な議論を繰り広げ、各国参加者がアクションプランの検討を行いました。

同ワークショップは、①政策立案者向けのセッション(Policy Makers Workshop)と②将来の担い手となる若手女性スポーツリーダーを育成するセッション(Young Women Workshop)の2つから構成。①での目的は、「各国の文化やコンテキストを考慮した「女性のスポーツ参加率向上のための政策レベルのアクションプラン」の策定です。国ごとの課題の洗い出しや、必要な戦略と取組に関してディスカッションした上で、実行可能なアクションプランを作成しました。②では、スポーツ分野で活躍する次世代のリーダー29名に対して「アドボカシースキル(社会課題分析に基づいた政策提案のスキル)及びリーダーシップスキル」に焦点を当てたセッションを展開。アドボカシー実践のために必要なツールやスキルについて学びながら、実際のアドボカシー計画の作成まで行いました。

本事業は、こうした様々な取組を経た上で行われたものです。スポーツ界からASEAN諸国のジェンダー平等をさらに推進するために、下記5つを本事業の目的とします。

- ① ASEAN諸国と日本のさらなる連携の促進
- ② スポーツにおける国際的なジェンダー平等の理解推進
- ③ 2021年のワークショップで設定したアクションプランのフォローアップ
- ④ スポーツ界から各国のジェンダー平等を推進する次世代リーダーの育成
- ⑤ 日本・ASEANによるジェンダー平等の取組の世界へ向けた発信

対象国・地域及び国内の対象者・地域の課題とニーズ

対象国・地域:ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム

前述のワークショップにおける①政策立案者向けのセッションでは、ASEAN加盟国の政策立案者が実践的なアクションプランを議論し、今後の自国での政策議論につながる基盤を築くことができました。議論を通じて可視化された課題は以下の4つです。

- スポーツのあらゆるレベル、特に指導的立場における女性の参画の欠如
- スポーツに参加する女性に対する社会的価値の認識理解の欠如
- 女性がスキルや能力を開発する機会の不足
- 政府や自治体における男女共同参画政策の欠如

上記の課題に対し、以下に示す4つの課題解決のアプローチを本事業の柱として決めました。

- (1) 政府のアクションプランのフォローアップ
- (2) 若年女性リーダーの育成
- (3) リーダーシップ研修の提供
- (4) 国際発信及び国際機関との連携

こうしたアプローチを通じて、各国政府のスポーツ政策におけるジェンダー主流化の促進や、スポーツ界で女性がより活躍できるようにするためのトレーニングの提供、さらには女性がスポーツに取り組むことに価値を見出せるような社会的認識の改革につながっていくと考えています。

1. 事業内容

事業期間及び今年度の歩み

事業期間：2022年10月14日～2023年2月28日まで

今年度の歩み

2022年
10月

事業開始

ASEAN事務局とのコミュニケーション

タイで実施された日ASEAN女性スポーツ会合に参加し、本事業内容について、ASEAN（全10か国）から承認



2022年
11月

第8回IWG世界女性スポーツ会議（ニュージーランド・オークランド）参加・発表

- ASEAN事務局、タイ政府、スポーツ庁、順天堂大学女性スポーツ研究センターの代表者が現地参加し、2021年に実施したワークショップ（下記参照）の成果を発表
- 女性スポーツにおける世界のグローバルリーダーとのネットワークを構築
- ASEAN（全10か国）から各国1名がオンラインで参加



2022年
11月

最初のフォローアップワークショップの実施国がタイに決定

2023年
1～2月

タイにおいて、スポーツ関係者向けのワークショップ、若年女性リーダー向けのワークショップを開催



Actions on Sports

ASEAN
JAPAN



ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports ワークショップ概要

正式名称：ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports

日本語表記：スポーツにおけるジェンダー平等を促進するための日ASEANワークショップ

日程：2021年8月10日～8月13日

実施形式：オンライン

共同主催者：ASEAN事務局、スポーツ庁

協力：UN Women Japan Liaison Office
UN Women Indonesia and Liaison to ASEAN

実施機関：順天堂大学女性スポーツ研究センター（JCRWS）

主な講師：2020年のIOC Women and Sport Award（南北アメリカ地区）を受賞したカナダのGuylaine Demers博士、スポーツを通じた女性のエンパワメントを支援するNOWSPAR代表で、ザンビア大学のLombe Mwambwa博士などのグローバルリーダーをメインファシリテーターとして招聘。

「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」の目的

- ① ASEANにおける女性のスポーツ参加を促進するためのASEAN各国のアクションプランを策定する
- ② スポーツを通じた、ライフスキル・リーダーシップトレーニングを実施し、ASEAN各国の若年女性のエンパワメントを図る

対象国：ASEAN加盟10か国、参加者：約60名

【政策立案者】

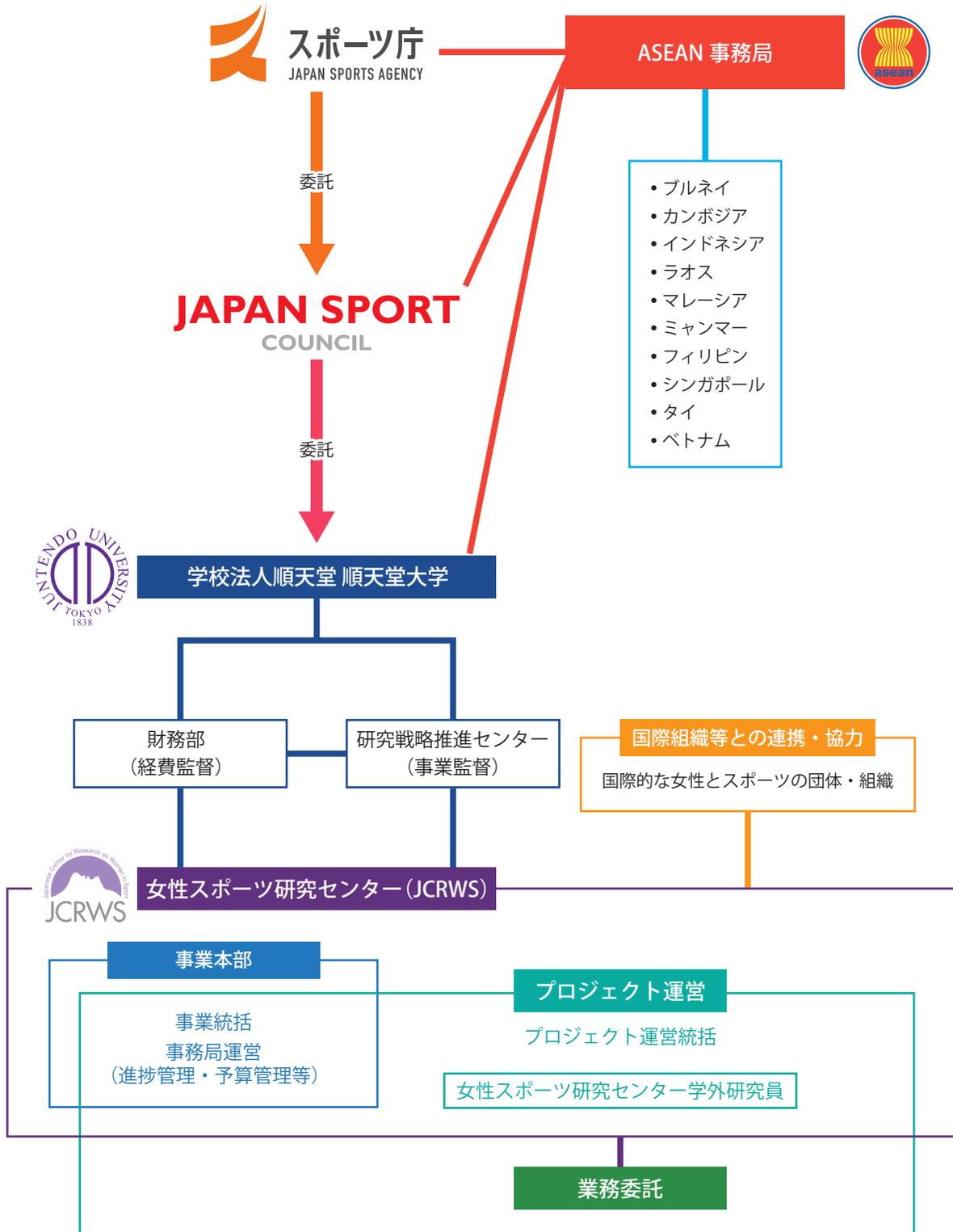
- 中央政府の代表者：各国1名
- 地方政府の代表者：各国1名
- 各NOCの女性・スポーツ委員会委員長または代表者：各国1名

【若手女性スポーツリーダー】

- ASEAN各国の女性（18歳～25歳）：各国2名
- UNESCO's Youth Task Force on Sports for SDGsのASEANメンバー：5名
- 日本からは、順天堂大学の学生2名が参加

※参加者は、実施期間の各国状況（感染症、治安等）に応じ、個別に万全の態勢となるよう配慮した上で、オンラインで参加
※本プロジェクトは、日本政府を通じ、JAIF（日ASEAN統合基金）によりサポート

実施体制



2.今年度の事業目的と概要

前述した、2021年のワークショップで可視化された課題と、それに対する課題解決アプローチを踏まえ、今年度の事業では、以下に示す4つの事業を実施しました。

■事業1:ASEAN事務局との連携強化と戦略立案

東南アジア10か国を取りまとめるASEAN事務局と連携することは、各国の足並みをそろえた事業実施において必要不可欠です。優先順位や各国の情報と公平性を担保しながら、どのように事業を展開していくか、戦略立案や事業の進め方に助言を得ながら、各国とのコーディネーションまで担っていただきました。

具体的には、ASEAN事務局と定期・不定期の会議や日々のEメール等を通じて連携を強化。企画内容においてもコンサルテーションを受けました。また、2022年10月にタイで開催されたASEAN10か国の政府が集まる会議(日ASEAN女性スポーツ会合)に参加し、本事業の計画について各国政府にプレゼンした上で助言をいただきました。ASEAN10か国政府関係者に対し、「Sport for Tomorrow (SFT)」推進事業を通して、日本が継続的にASEAN諸国を支援していることを周知する絶好の機会となりました。

■事業2:世界女性スポーツ会議への参加とASEAN諸国と連携したプレゼンテーション機会の創出

2022年11月14日～17日にニュージーランドで開催された第8回IWG世界女性スポーツ会議に、ASEAN10か国からそれぞれ1名及びASEAN事務局関係者2名が参加しました。加えて、IWG事務局と交渉し、グループプレゼンテーションを実施する枠を獲得。ASEAN10か国からの参加者のうち、代表の1か国及びASEAN事務局が、前述の「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」での成果と、各国の女性スポーツに関わる取組とその課題を発表しました(オンデマンド、オンラインでの参加及び情報共有は、全10か国を対象としました)。世界各国の政府関係者や専門家、スポーツ関係者、アスリートやコーチなど、多様なスポーツリーダーに向けて、東京2020大会を見据えた日本のスポーツにおける国際協力と女性スポーツ政策への取組について発信しました。

また、ASEAN10か国の参加者には、参加報告書の作成及び自国の関連団体へ内容の共有を依頼し、報告書の提出をもって評価モニタリングを行いました。本会議全体を通して、ASEAN10か国及びASEAN事務局の関係者が、自国や東南アジア全体のスポーツにおけるジェンダー平等のためのアプローチを学び、世界中の様々な好事例に触れる良い機会となりました。

■事業3:タイ政府のアクションプランのフォローアップ

各国の女性が置かれている状況は、文化・社会・宗教的な影響を受けており、国によって優先的に取り組むジェンダー課題は異なります。効果的なジェンダープロジェクトを実施するためには、各国の個別ニーズに応えながら、各国政府関係者と事業の企画立案をすることが不可欠です。そこで、前述した「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」のフォローアップとして、ワークショップ内で各国政府が作成した女性スポーツ政策に関するアクションプランをもとに協働事業を実施。ASEAN事務局からの助言と各国の状況を鑑み、今回の対象国はタイとなりました。国際的にスポーツ界のジェンダー平等を推進する団体や、女性スポーツリーダーを育成している団体などの国外ネットワークと、国内のジェンダーとスポーツに関する専門家などと連携し、タイ政府のニーズや希望に応えながら、フォローアップのワークショップを2日間にわたって実施しました。

■事業4:タイの若年女性リーダーシップ研修のフォローアップ

事業3と同じくタイにおいて、若年女性リーダーに対し、スポーツを通じた女性のエンパワーメントワークショップを実施しました。国内のジェンダー課題に特化した「開発のためのスポーツ (Sport for Development: SFD)」等の視点も含めながら、タイ政府と共にプログラムを構築。グローバルネットワークや日本のネットワークから専門家も協力しました。

3.実施報告

事業1

ASEAN事務局との連携強化と戦略立案

■全体報告

ASEAN10か国と事業を実施する上では、ASEANの共同体としての合意を取りつけながら、各国へのアプローチが必要となります。そのアプローチにおいて重要な位置づけにあるのが、ASEAN10か国を取りまとめる「ASEAN事務局」です。ASEAN事務局は、ASEAN10か国と我々主催団体を繋ぐ架け橋のような存在であり、前述の事業概要の通り、事業開始から日常的に様々なコミュニケーションツールを介して連携を図ってきました。順天堂大学から各事業の構想や企画内容をASEAN事務局に提案し、ASEAN事務局からのコンサルテーションを受けながら各国との合意形成を進めました。さらに、ワークショップ実施の際には参加者の募集と実施協力の要請促進をASEAN諸国に対して行うなど、各事業の遂行にあたって欠かすことのできない基盤を構築することができました。

具体的には、第8回IWG世界女性スポーツ会議への代表参加国の選出協議、各国の参加者から提出される事後課題のフォローアップ、また、今年度実施するフォローアップワークショップの実施国の決定や内容の協議など、日常的に意見交換を実施。日々のやり取りを通じ、主催団体とASEAN事務局との連携を強化することができ、事業を進める過程でASEAN事務局とのより一層の連携、信頼感や一体感を構築することができました。

■日ASEAN女性スポーツ会合(タイ)での事業概要発表報告

2022年10月27日、タイのプーケットで開催された「第3回日ASEAN女性スポーツ会合」及び「第5回日ASEANスポーツ高級実務者会合」に、本事業のプロジェクト運営リーダーである野口亜弥氏(順天堂大学スポーツ健康科学部 助教)が参加し、前述のワークショップ「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」の成果報告と今後の5年計画について、各国政府の関係者に報告し、合意が得られました。

各国政府関係者が一同に会す政府間会合において、各国関係者と対面で会話し、事業計画への合意を取れたことは、大きな成果となりました。また、2021年に開催したワークショップの最初のフォローアップ国の候補として、タイ政府と意見交換の機会を設けることができました。そのほか、シンガポールやマレーシア、フィリピンの政府関係者・スポーツ関係者と意見交換し、各国の女性に関するスポーツ政策や課題をヒアリングしました。対面の政府間会合に参加できたことにより、各国のスポーツ団体の関係者とも意見交換をすることができ、有意義な機会となりました。



3.実施報告

事業2

世界女性スポーツ会議への参加と ASEAN諸国と連携したプレゼンテーション機会の創出

■現地参加報告

第8回IWG世界女性スポーツ会議(以下、IWG会議)は、2022年11月14日～17日、ニュージーランドのオークランドで開催。本事業では、グローバルなスポーツとジェンダー平等の議論を理解し、多様な専門家や専門組織とのネットワーク作り、さらに本事業の進捗や成果を国際的なスポーツとジェンダーの専門家に発信する機会として、ASEAN諸国関係者のIWG会議への参加を支援しました。

ニュージーランドのJacinda Ardern首相のビデオメッセージで始まった同会議には、4日間で約1200名が現地で、約500名がオンラインで参加。約500名の国際色豊かなスピーカーによる220以上の興味深いセッションが提供され、多くの連携が生まれました。

【グループプレゼンテーション】

会議3日目には「東京2020大会を契機としたアジアのスポーツにおけるジェンダー平等の推進」と題し、スポーツ庁、ASEAN事務局、タイ政府、ASEAN各国からの関係者と共に、以下のようなグループプレゼンテーションを実施。会場に集まった約20名の参加者と意見交換を行いました。

2部構成で実施された計90分のグループプレゼンテーション。本事業のプロジェクト運営リーダーを務める野口亜弥氏が司会を務め、事業の概要紹介からスタートしました。

本事業の背景にあるプロジェクト「Sport for Tomorrow」をはじめ、東京2020大会期間中に開催された「ASEAN-JAPAN Working on Promoting Gender Equality in Sports」事業での成果を共有。本事業については、スポーツ庁の独自予算により計画されていること、その予算に基づく事業計画などが紹介されました。

〈Session 1〉

スポーツ庁女性スポーツ推進専門官の穴見翠氏より、日本政府が取り組む「スポーツにおけるジェンダー平等」の施策が共有されました。東京2020大会について「歴史上で最もジェンダー平等な大会だった」と触れながら、トップレベルの女性リーダー・指導者育成、障がい者スポーツ、学校体育など、多角的な側面から日本の女性スポーツ政策を紹介しました。

ASEAN事務局青少年スポーツ局のシニアオフィサーであるLarasati Indrawagita氏は、ASEAN諸国における女性のスポーツ実施率向上を目的に実施された「ASEAN WE SCORE Break records, make history!」について情報提供しました。また、ASEAN事務局が各国と連携して取り組んでいる、スポーツを通じたジェンダー平等を推進するためのプロジェクトにおいては、各国で活躍する女性アスリートをアンバサダーとして起用したことを紹介。「スポーツは、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを推進するプラットフォームになり得る」と、各国アンバサダーの思いを代弁しました。

〈Session 2〉

タイ観光スポーツ省体育局局長のNiwat Limsuknirun氏は、タイ政府のスポーツ政策におけるジェンダーの主流化について発表。タイ政府が「スポーツ・フォー・オール(みんなのためのスポーツ)」に重きを置いていること、「マラソンや体操など、日常的にスポーツと触れ合う機会をすべての国民に提供したい」という自身の思いを述べました。また、テコンドーやウエイトリフティング、バレーボール、キックボクシングなど、タイで女性が活躍する競技についても紹介しました。



野口亜弥氏



穴見翠氏



Larasati Indrawagita氏



Niwat Limsuknirun氏

後半では、会場とオンライン参加者をつないだディスカッションが行われました。ブルネイの政府関係者は、2021年のワークショップでの経験を共有。どのように女性のスポーツ参画を促す施策を実施しているのかについて情報提供しました。

セッションの最後に、本事業実施団体である順天堂大学女性スポーツ研究センターセンター長の小笠原悦子氏は、2021年に開催したワークショップと本セッションの盛会について、登壇者・参加者に感謝を述べました。さらに、女性とスポーツの国際団体「Women Sport International」、日本女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」、「アジア・ニュージーランド財団」の関係者から、ASEANと日本のパートナーシップ発展のために共に協働していきたいとの前向きな表明もありました。

【IWG会議の成果】

最終日には、IWG会議開催事務局より「Call to Action」が発表され、様々な国から推薦された11名の若年女性リーダーが行動を呼びかけるステートメントを読み上げました。そのなかには、本事業で日本から参加した若手人材も選出。このことは、本事業の目的の一つである、スポーツにおけるジェンダー平等推進を担う日本の若手グローバル人材の育成を目指す上で、貴重な機会となりました。

本事業業務に携わる折目真地氏は「スポーツにおけるジェンダー平等とは何なのかを多角的に考え、国際的な動きのなかで日本におけるジェンダー平等を俯瞰的に考える機会になった」とIWG会議への参加の感想を語りました。2021年のワークショップに携わった橋本紗英氏も「セッションの聴講だけでなく、ジェンダー平等に日々取り組む世界各国の参加者との議論が非常に有意義だった」と感想を述べ、本会議が若い二人にとって大きな刺激になったことが伺えました。

4日間にわたる世界女性スポーツ会議での学びは、参加者にとって自国の女性スポーツ発展に向けた次のステップを検討するための貴重な財産となり、本事業におけるプロジェクトをさらに後押しするものとなりました。



会場とオンライン参加者をつないだディスカッション



小笠原悦子氏



「Call to Action」の発表



グループプレゼンテーション登壇者

■参加者報告① ASEAN事務局 Larasati Indrawagita氏



ASEAN事務局
青少年スポーツ局
シニアオフィサー

ニュージーランドのオークランドで開催されたIWG会議に参加できたことで、インクルーシブスポーツに対する視野が広がり、日本やアメリカ、中東・北アフリカの成功事例など、ほかの地域でのプロジェクトの経験に基づく新しいアプローチを学ぶことができました。スポーツを通じたジェンダー平等推進事業のもと、ASEANの#WeScore キャンペーンの成果を発表することができ、大変光栄に思います。東南アジア地域の国々が、関連団体やスポーツ連盟への参加を通じて、今後数年間でスポーツにおける女性や少女の役割を高めるための協力を深めることによって、ASEAN共同体の構築や日ASEAN関係の強化につながることを期待しています。

■参加者報告② スポーツ庁 穴見 翠氏



スポーツ庁
女性スポーツ推進専門官

IWG会議を通じて、多くの啓発と刺激を得ました。また、地域を超えて、様々な立場にある関係者による情報・意見交換の意義と重要性を再認識しました。特に、同会議において、ASEAN事務局及びASEAN各国とともに、日本として女性スポーツに関するスポーツ庁の取組等をご報告させていただいたことは大変貴重かつ光栄な機会でした。今後とも、日ASEANスポーツ協力枠組みの下、ともに、アジア地域でのスポーツを通じた女性の活躍促進に取り組んでまいりたいと考えます。

3.実施報告

事業2

世界女性スポーツ会議への参加と ASEAN諸国と連携したプレゼンテーション機会の創出

■オンライン参加報告

【インドネシア】

第8回IWG世界女性スポーツ会議（IWG会議）に参加後、女性やアスリートがスポーツの重要性を認識できるようになるためのワークショップを実施しました。プロとしてだけでなく他分野で活動し、スポーツ界のリーダーや政策立案者になることも可能です。私たちは努力を重ねることで人生をより良くし、もっとスポーツを楽しんでいけるのです。

タイが言及したスポーツ開発ピラミッドは、女性のスポーツ参加を促進する手段として我が国にも役立つものだと感じました。インドネシアにも女性のスポーツ参加を促進する取組が多々ありますが、2021年の「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」で定めたアクションプラン実行にあたっては、基幹組織や地方自治体、環境整備に関する研究など、関係者からのさらなる支援も必要で、さらにステークホルダーと女性たちとの理解を構築することが必要だと感じています。スポーツにおける女性へのマイナーな考えや疑念がまだあるからです。今後、スポーツ団体とコミュニケーションをとって、スポーツにおける女性のジェンダー平等の重要性を説明していきたいと考えています。

【カンボジア】

日本とタイは、スポーツにおける女性の強化に関する政策を適用して目覚ましい結果を出していると感じました。特に、日本のスポーツ庁が発表した「女性スポーツの認知度を上げるためのビデオプロジェクト」は、我が国にも応用できると思いました。女性のスポーツ振興のための、人々の関心を引くような面白いビデオを作成することで、女性スポーツ選手に対する認識を高め、その普及に努めるよう促すことができると考えています。

2021年の「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」で定めたアクションプランや政策を実行する上での課題は、我が国のスポーツにおける女性の意識と関与の欠如、限られた予算・施設、社会規範、伝統などの存在です。しかし、IWG会議に参加して得た知識やコンセプトを2021年のワークショップで策定した行動計画・方針に盛り込み、国の関係者を巻き込みながら適切な形で実現できるよう働きかけることで、行動計画や方針の実践やアップデートに取り組んでいきたいと思っています。

【シンガポール】

IWG会議への参加を通じて、世界には、学べる好事例が十分にあり、世界中にあるインスピレーションから環境へ適用させるべく取り組んでいくことで、関係者の賛同をより円滑かつ容易に得ることができると、改めて確信することができました。シンガポールオリンピック委員会（SNOC）傘下の女性スポーツ委員会（WSC）チームは、スポーツにおける女性のための男女平等政策を打ち出すために白書を作成している最中ですが、ジェンダー・クオータの観点で行き詰まりを感じていたため、ジェンダー・クオータの好事例を学ぶことのできるセッションは大変興味深いものでした。さらに、今回の参加で得た学びは、2022年11月25日に行われたWSC内部の四半期ごとの会議と、Sport Singapore・CoachSGの参加者を含んで別途実施したオンラインセッションの機会でも、WSCと共有しました。

【タイ】

各国の取組は、自国にも応用できそうだと感じました。特に、各国がIOCの理念である「スポーツは男女平等を推進し、女性と少女たちをエンパワーメントするための最も強力なプラットフォームの一つである」に基づき、あらゆるスポーツ活動において男女平等を推進していることを実感しました。本事業のセッション「Promoting Gender Equality in Sport in Asia」では、アジア諸国の有益なデータが多く反映されており印象に残りました。会議の参加を通じて、スポーツ政策におけるジェンダー問題を国際的な観点からどのように取り組むかについて、多くのスキルと知識を得ることができました。

これまで女性の社会的な役割は専業主婦、男性は労働に集中していましたが、女性や少女が体育やスポーツをする機会を増やすことは、より強い社会的統合を促進し、女性や少女の社会的弱さの原因となっている女性への偏見を克服するのに役立つと考えています。

【フィリピン】

データによると、フィリピンでの女性のスポーツ参加者数は男性よりも少なく、女性コーチの数も顕著に少ないことがわかっています。男女平等を推進する上で女性コーチや役員を増やすことは、すべての人にとって安全なスポーツ環境を作ることに繋がります。IWG会議では、ジェンダー問題をより広い視野で捉えることができ、私たちの歩むべきジェンダー平等への道筋をより明確にすることができました。参加したセッションすべてが印象的で、今後女性が活躍するための計画を立てる際の参考になりそうです。特に、女性に責任が与えられることは、女性の能力と信頼を示す重要な手段になるでしょう。

会議で紹介された情報、洞察、好事例は、フィリピンスポーツ委員会の女性プログラムで応用することができるでしょう。2021年の

「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」で作成したアクションプランや政策を再検討・再評価し、今回の会議で得た洞察と整合させていきたいと考えています。

【ブルネイ】

あらゆるスポーツの場面で男女平等の重要性を理解することが必要で、スポーツの教育、啓発、参加などにおいて、すべての人に平等で公平な機会が提供されるべきです。ASEANのスポーツ界では、女性が重要な役割を担うことはまだ多くありません。日本政府のサポートの下、今こそ加盟国が一丸となって協力するときだと感じています。

最も印象に残った発表は「スポーツにおける障壁を減らすための女性主導のエコシステム」でした。女性がコーチや専門職、スポーツ団体や統括組織で大きな役割を果たせるようになるにはどうしたらいいか、私たちは戦略的な道筋を確保する方法を考える必要があります。

ブルネイでは、女子スポーツに関する具体的な政策がまだありません。そのため、男性優位のスポーツにおいて女性がイニシアチブをとろうとする場合、政策改正には時間がかかります。しかし、IWG会議は、自国で女性スポーツのために活動するにあたり、大きな影響をもたらしてくれたと感じています。

【ベトナム】

「IWG 2022 PROGRESS REPORT SUMMARY」には、ジェンダー関連のスポーツ行動・計画・戦略の解決策を提案するために必要な、過去と現在の問題点が示されていることが印象的でした。2021年の「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」で定義されたアクションプランを実行する上で、私たちが自国で日々直面している課題は、女性のスポーツ参加に対するアイデアや取組が優先事項として考えられていないことです。IWG会議では、スポーツにおける男女共同参画や平等が重視され、スポーツや身体活動への女性の進出が進んでいることが示されました。会議での学びを生かすためにも、女性スポーツに関するセミナー・ワークショップ・会議の開催、スポーツに関わる女性の学習機会の創出、あらゆるスポーツ分野における男女平等養成機会の支援など、女性のスポーツ参加を促進し、スポーツを通じて若い女性の力を高めるためのさらなる取組が求められていると考えます。

【マレーシア】

日本政府のプレゼンテーションは非常に興味深く、子どもに優しい施設の設置やMy Sport Menuアプリなど、多岐にわたって紹介されていました。「スポーツキャリアサポートコンソーシアム」は、マレーシアにも似たようなプログラムがあるので、さらに内容を検討できると感じました。タイのプレゼンテーションも非常に魅力的で、自国でも実施可能だと思いました。

私たちは、2021年から2025年にかけて適用される「女性スポーツのための行動計画」を発表しています。このアクションプランは、現在広い年齢層の女性を対象とした様々な種類のプログラムを実行する際の指針です。青年スポーツ省や女性家族地域開発省なども、2009年の国家女性政策のもと、あらゆる年齢の女性がスポーツに取り組めるよう支援しています。私たちの主な課題は、必要な女性コーチ・審判員の数を確保することです。マレーシアで既に策定している「女性のための国家行動計画」のなかに、IWG会議での学びからプログラムのさらなる充実を図るとともに、今後マレーシアの状況に合うような新しいアイデアも取り入れていきたいと考えています。

【ミャンマー】

本事業の「若年女性のためのリーダーシップ研修」のプロジェクトに注目しています。発展途上国である我々は、スポーツ界のジェンダーバランスの未来のために、若年女性のエンパワーメントを行う必要があります。女性のスポーツ参加を促進するために、国内での統計データを調査することも必要だと考えています。

先進国のものを発展途上国である我が国に適用するのは非常に困難ですが、フィンランドが発表した「スポーツにおける平等の秘密を解く」は非常に興味深く、自国の問題解決にあたり多くの学びを得られました。

ミャンマーの女性は、スポーツボランティアなどの社会活動に積極的に参加しています。しかし、女性に関するスポーツ政策の策定は遅れており、最大の課題は政策立案者の関心です。エビデンスに基づく統計データが不可欠なので、まずは調査を実施し、スポーツ参加への障壁を検証したいと思います。

【ラオス】

日本とタイの発表を聞いて、あらゆるスポーツ活動が将来的に女性のスポーツ参加者を増やすために非常に重要であると思いました。ほかに「地域での少女や女性のスポーツへのアクセスのしやすさについて問うセッション」が印象的で、自国の女性のスポーツ参加促進のために、施設整備と利用しやすい環境作り、そしてアクセシビリティを向上させたいと思われました。

ラオスでは、スポーツをする女性の数は限られています。スポーツに携わる女性は、知識やスキルを向上させる機会があまりありません。女性スポーツ選手の数が少ないのは、女の子は家事をするために親を手伝わなければならない、家族のサポートを得られないことが原因です。IWG会議で得た学びは、スポーツ部門と共有し、将来的にスポーツ界に占める女性の数を増やすための行動計画を策定してスポーツ政策に適応させるために、非常に有益なものでした。

3.実施報告

事業3 タイ政府のアクションプランのフォローアップ 事業4 タイの若年女性リーダーシップのフォローアップ ワークショップ概要

【日程】

- 1) タイ政府のアクションプランのフォローアップ
スポーツ関係者向けのワークショップ
2023年1月29日～1月30日
- 2) タイの若年女性リーダーシップのフォローアップ
若年女性リーダー向けのワークショップ
2023年1月31日～2月1日

【場所】

タイ・バンコク
(Supachalasai Meeting Room at the National Stadium)

【主催】

順天堂大学女性スポーツ研究センター

【共催】

タイ観光スポーツ省体育局

【参加者】

スポーツ関係者向けのワークショップ:30名程度

- ・スポーツ・フォー・オールや普及育成に関わるスポーツ関係者
- ・学校体育に関わる関係者
- ・スポーツに関わるメディア関係者

若年女性リーダー向けのワークショップ:30名程度

- ・13歳～22歳のスポーツリーダー

講師紹介

【講師】



Dr. Niwat Limsuknirun
タイ観光スポーツ省体育局 局長
体育教育での幅広いバックグラウンドに加え、複数のアジア競技大会や世界選手権を含む国内及び国際スポーツ大会の主催も支援。また、現職と並行して様々な国際スポーツ組織で複数の役職を同時に務めている。



山口理恵子氏
城西大学経営学部 教授
スポーツ心理学、女性学、比較ジェンダー論、スポーツ文化論を専門とし、スポーツとジェンダーに関する様々なトピックを研究。女性とスポーツの分野でも複数出版しており、現在NPO法人ジュース (JWS; Japanese Association for Women in Sport) の副理事長としても活躍している。



森本美紀氏
ナイキ ディレクター アジア・パシフィック コミュニティ・インパクト
国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンや、Ernst & Youngでの経験を経て、現職でアジア・パシフィックのコミュニティ・インパクトの戦略をリードし、地域のニーズに基づいたコミュニティとのパートナーシップを推進。ナイキのブランド力を活用し、子どもの身体活動の重要性を社会に向けて発信する役割を担う。



野口亜弥氏
順天堂大学スポーツ健康科学部 助教
3か国以上でサッカー選手としてプレーし、引退後は様々な NGO やスポーツ組織で開発と平和のためのスポーツプロジェクトに携わり、スポーツと開発・スポーツとジェンダーとセクシュアリティの専門知識を開発し、現在は様々なプロジェクトや団体に活躍。



井上由惟子氏
一般社団法人 S.C.P. Japan 共同代表
元サッカー選手で、2008年のU17女子ワールドカップに日本代表として出場。引退後は国際協力機構 (JICA) のボランティアや公益財団法人日本サッカー協会 (JFA) での経験を経てS.C.P. Japanに加わり、主に日本でのバドミントンプロジェクトを総括。



繁浪由希氏
一般社団法人 S.C.P. Japan 理事
日本最高峰の女子サッカーリーグでプレーする傍ら、幼稚園教諭一種免許を取得。引退後は幼稚園教諭となり、保育士資格も取得し活動の幅を広げている。S.C.P. Japan では主に教育プログラムと広報を担当。

【トークショー ゲストアスリート】



Capt. Pawina Thongsuk
重量挙げ 金メダリスト
2004年のアテネオリンピックで75kg級のカテゴリーで金メダルを獲得。また、2005年には63kg級の世界選手権でも優勝を果たしている。



Capt. Chanatip Sonkham
テコンドー 銅メダリスト
2012年ロンドンオリンピック49kg級で銅メダルを獲得。さらに、2010年アジア競技大会、2010年と2012年のアジアテコンドー選手権大会で銅メダル。2013年世界選手権大会で金メダルを獲得。



小笠原悦子氏
順天堂大学女性スポーツ研究センター センター長 / 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 教授
中京大学、鹿屋体育大学で水泳コーチとして活躍後、1997年オハイオ州立大学にて博士号(スポーツマネジメント)を取得。2006年の「世界女性スポーツ会議くまもと」では、国際女性スポーツワーキンググループ(IWG)の共同議長も担う。IWGグローバルエグゼクティブメンバー(アジア代表)。

■ワークショップ スケジュール

	1月29日	1月30日		1月31日	2月1日
	スポーツ関係者向けのワークショップ			若年女性リーダー向けのワークショップ	
8:45	8:45～9:00 オープニング挨拶 Dr. Niwat Limsuknirun、 小笠原悦子氏	8:45～9:00 オープニング	8:45	8:45～8:55 オープニング挨拶 Dr. Niwat Limsuknirun、 野口亜弥氏	8:45～9:00 オープニング
9:00	9:00～9:30 2021年ワークショップの 振り返り 講師：野口亜弥氏	9:00～9:45 開発と平和のためのスポーツ (ジェンダー課題) 講師：野口亜弥氏	9:00	8:55～9:10 アイスブレイク 講師：井上由惟子氏、 繁浪由希氏	9:00～9:20 アクティビティ 講師：井上由惟子氏、 繁浪由希氏
10:00	9:30～11:00 スポーツで見られる ジェンダー課題 講師：山口理恵子氏	9:45～10:30 スポーツとメディア 講師：山口理恵子氏	10:00	9:10～9:30 エンパワーメントの導入 講師：野口亜弥氏	9:20～10:00 セーフガーディング/ セクシャルハラスメント 講師：井上由惟子氏
11:00	11:00～11:15 休憩	10:30～10:45 休憩	11:00	9:30～10:30 Who's the BOSS of your body? 講師：山口理恵子氏	10:00～10:15 休憩
12:00	11:15～12:30 タイのジェンダー課題を 考えてみる 講師：Dr. Niwat Limsuknirun	10:45～12:00 スポーツとメディア グループワーク 講師：山口理恵子氏	12:00	10:30～10:45 休憩	10:15～11:30 セーフガーディング/ セクシャルハラスメント 講師：井上由惟子氏
13:00	12:30～13:30 昼食	12:00～13:00 昼食	13:00	10:45～12:00 エンパワーメント (アクティビティ) 講師：井上由惟子氏、 繁浪由希氏	11:30～12:30 昼食
14:00	13:30～15:00 なぜ女の子は スポーツをしないの？ 講師：森本美紀氏	13:00～14:00 ロールモデルと 女性アスリート 講師：森本美紀氏	14:00	12:00～13:00 昼食	12:30～12:45 アイスブレイクアクティビティ 講師：井上由惟子氏、 繁浪由希氏
15:00	15:00～15:15 休憩	14:00～14:15 休憩	15:00	13:00～13:15 アイスブレイク 講師：井上由惟子氏、 繁浪由希氏	12:45～14:00 ワークショップ： 自分の「声」を使って 社会を変える 講師：森本美紀氏
16:00	15:15～16:15 セーフガーディングとスポーツ 講師：野口亜弥氏	14:15～16:15 グループワーク 「スポーツでジェンダー平等を 推進するための次のステップ」 グループプレゼンテーション	16:00	13:15～14:15 ロールモデル 講師：森本美紀氏	14:00～14:10 休憩
		16:15～16:30 クロージング 挨拶 :Dr. Niwat、小笠原悦子氏		14:15～14:25 休憩	14:10～15:40 ユースのプレゼンテーション 「自分の声を使ってスポーツでの ジェンダー平等を推進する」 講師：森本美紀氏
				14:25～16:00 Capt. Pawina Thongsuk と Capt. Chanatip Sonkham トークショー モデレーター：野口亜弥氏	15:45～16:15 クロージング

3. 実施報告

事業3

タイ政府のアクションプランのフォローアップ 「スポーツ関係者向けのワークショップ」報告

■ 1日目(1月29日)

スポーツ関係者向けのワークショップ、初日のオープニングには、タイ観光スポーツ省体育局局長のNiwat Limsuknirun氏と、本ワークショップ主催である順天堂大学女性スポーツ研究センターセンター長の小笠原悦子氏が挨拶。小笠原氏は開催実現に感謝を述べ、「本ワークショップが、スポーツを通じたジェンダー平等に関して理解を深める有意義なものとなるよう願っています」とスピーチしました。

最初に登壇した順天堂大学スポーツ健康科学部助教の野口亜弥氏は、2021年にオンラインで行われた「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」を振り返って紹介。日本政府は今後5年間でアクションプランのフォローアップとリーダーシップ研修を行う予定で、タイがその最初の国になったことが説明されました。

城西大学経営学部教授の山口理恵子氏は、「スポーツで見られるジェンダー課題」というテーマで登壇。世界146か国を対象にしたジェンダーギャップ指数が、タイは79位、日本は下位の116位であり、社会にはいまだに根強い男女差別があることを近年のニュースや自身の経験などを交えて紹介しました。ジェンダー平等を実現するためには、女性の地位向上だけでなく、男性自身・男性間の問題や世代間ギャップまで考えることの重要性を説きました。

冒頭で挨拶したNiwat氏は、「タイのジェンダー課題を考えてみる」のテーマでプレゼン。その後、大手スポーツメーカー・ナイキでディレクターを務める森本美紀氏が「なぜ女の子はスポーツをしないの?」というテーマで登壇しました。森本氏は、女の子のスポーツ参加率が低いことに関して、自分に合ったスポーツがない、成長につれてスポーツをしても心地良いと感じにくくなるなどの理由を挙げ、総じて「楽しくない」ことが問題と指摘。セッション後半は会場外に移動し、タイの女の子がスポーツをしない理由をグループディスカッション形式で考え、発表しました。

1日目の最後には、野口氏が「セーフガーディングとスポーツ」というテーマで講義。セーフガーディングとは、暴力などの人権侵害を防ぎ、すべての人が安心・安全にスポーツに参加できるようにするための組織の取組のことですが、弱い立場の人を人権侵害から組織として守っていくセーフガーディングの大切さを説きました。セッション後半には再び山口氏も登壇。日本では盗撮を含む性暴力が問題視されていることなどを紹介し、性暴力そのものに加え、被害者への二次被害の問題も深刻であると力説しました。最後に野口氏は「スポーツ界では、被害者も被害に気づかない場合もある。まずはこのことを認識した上で、安心・安全な環境作りが必要」として、セッションを締めくくりました。



左から、Niwat Limsuknirun氏、小笠原悦子氏



山口理恵子氏



森本美紀氏



野口亜弥氏

参加者インタビュー

Dr. Suwanna Silpa-archa

国際スケート連盟(評議員)およびタイオリンピック委員会

日本政府がタイの女性のことを思い、私たちのために経験を共有しに来てくれたことをうれしく思います。私の経験と日本の皆さんの経験を組み合わせ、タイの社会と男女平等のために役立つものがあることを考えることができると思うので、ここで学んだことを活用したいと思います。タイが抱えている問題は日本にはなく、日本が抱えている問題はタイにはないかもしれません。しかし、それぞれの知識と経験を組み合わせ、改善したいです。

■ 2日目(1月30日)

2日目は、前日のワークショップの振り返りからスタートしました。最初の講義は野口氏の「開発と平和のためのスポーツ(ジェンダー課題)」。ツールとしてのスポーツが、社会やジェンダーの課題にどう役立つか、事例を挙げながらわかりやすく紹介しました。

次に、山口氏が「スポーツとメディア」をテーマに講義。日本では特に、メディアが女子や女性アスリートの容姿、笑顔を多く取り上げること、それに付随して女性の「痩せ」の問題などがあることを紹介しました。さらに、大手新聞・テレビ等メディアの女性社員が少なく、役員はほとんどいないことも問題であると指摘しました。後半は、タイのメディアにつ

いて、男女で分かれてグループディスカッションを実施。タイでも、男性スポーツの放送はあっても女子はないなど、メディアの偏りがあることがわかりました。山口氏は「メディアをどう活用すればさらにスポーツが発展するのか、これから考えてもらいたい」と話しました。

次に、森本氏より「ロールモデルと女性アスリート」の講義がありました。スポーツをする人にとって、身近なロールモデルの存在が重要であり、ナイキでは、個々の女性アスリートの「彼女らしさ」を打ち出すことを重視していると実例が挙げられました。身近なロールモデルとして、JUMP-JAMプログラムを実施している児童館スタッフの方々や、人種差別への抗議やLGBTQの啓発活動に力を入れている選手たちを紹介し、「そのままの自分」であることの大切さを説きました。

次に行われたのはグループワーク。「スポーツでジェンダー平等を推進するための次のステップ」と題し、女性のスポーツ参加を阻害する課題の要因を深掘りし、課題解決に向けて話し合いました。例えば、女の子が、運動するモチベーションをもてないことに対しては、指導者の質の問題が挙げられ、指導者育成のための政策や予算取りなどが解決策として挙げられるなど、スポーツ・政府関係者ならではの視点が語られる場面も多々ありました。

こうして2日間のワークショップが終了し、最後にNiwat氏と小笠原氏が閉会挨拶に登壇。Niwat氏は、「30年以上スポーツの現場に関わっていますが、自分の知らなかったことを含め、たくさんの意見を聞いてよかった。タイを最初の国に選んでいただき感謝します」と謝辞を述べ、閉幕しました。



一言も聞き漏らさないよう講義に集中する参加者たち



グループディスカッションに取り組むことによって意欲的に取り組めたと参加者たち



グループディスカッションでまとめた内容を、代表者が発表していききました



講義中、登壇者に向けて積極的に質問が寄せられるなど、活発な講義となりました

参加者インタビュー Ms. Rungkarn Sangthongsakullerd

タイ体操協会

このワークショップを実現したASEAN-Japanとタイ観光スポーツ省体育局の皆さまに感謝します。スポーツにおけるジェンダー平等の知識と、女性のスポーツ参加を増加させる方法を知りました。スポーツでは、ルールの守り方や勝ち負け、効率的な時間の使い方を学び、自信がつくことで、社会で幸せに過ごすことを可能にする力があると思います。今後は、幼少期からスポーツ参加の機会を作ることで質の高い人材を育て、社会課題を減らしていきたいと思っています。

参加者インタビュー Dr. Praphinwit Pokard

タイ国立体育大学

学ぶことと実践することは別の次元です。ジェンダーへの意識やメディアの大切さなど、気づいていない隠された問題があるかもしれないということを知りました。また、依然として性別の問題があり、この問題をもっと意識しなければなりません。我々スポーツ大学では、学生を含むスポーツ学校の子供たちに、今回の学びを伝えていきます。彼らはこれからタイの模範となるアスリートになっていくでしょう。本ワークショップで学んだ知識を共有して、さらに周知意識を高めたいと思います。

3.実施報告

事業4

タイの若年女性リーダーシップのフォローアップ 「若年女性リーダー向けのワークショップ」報告

■ 1日目(1月31日)

若年女性リーダー向けのワークショップは、全体的にアクティビティ豊富に行われました。初日の挨拶には、順天堂大学の野口氏と、前日から引き続き、タイ観光スポーツ省のNiwat Limsuknirun氏が登壇。野口氏は「東京2020大会では、ASEAN諸国の皆さんとワークショップを行いました。今回はタイでフォローアップワークショップが開催できたこと、ご尽力いただいた皆さんに感謝します」と挨拶しました。

まずはアイスブレイクを実施。講師・スタッフ陣が自己紹介した後、自己紹介ゲームで和やかな空気を作りました。

最初の講義は、野口氏が「エンパワメントの導入」と題し登壇。エンパワメントとは、社会のなかで弱い立場の人が選択できる能力を身につけるための過程のこととし、例えば女性が社会的地位や権威を持つためには、女性自身の能力向上と併せて社会の変化も必要であると強調しました。自分を大切にすることからエンパワメントが始まるので、自分自身の目的を定め、それに向かって行動することが重要であると説明しました。

次に、城西大学の山口氏が「Who's the BOSS of your body?」と題し、エンパワメントのさらなる講義を行いました。日本や世界での性被害・二次被害の事例を挙げ、男女共に被害に遭ったら勇気を持って声を上げようと呼びかけました。また、社会やメディアから過度に押し付けられる「女の子らしさ」も問題視。そして、冒頭に掲げた質問への答えを「I am.」つまり自分の体は自分のもの、自分で守ることが大切であると締めくくりました。

続いて、エンパワメントのアクティビティを実施。屋外に移動し、マスクからも解放されて、目標に向かって協力していくレクリエーションゲームやみんなが平等に楽しめるルールを自分たちで追加したサッカーを楽しみました。「社会を変化させるために必要なスキルをスポーツの現場で疑似体験しながら学ぶことができる」と、本セッションを担当した元サッカー選手で一般社団法人 S.C.P. Japan共同代表の井上由惟子氏がまとめました。個々が積極的に声を出し、のびのび体を動かす姿が見られました。

午後も再度アイスブレイクからスタート。最初に登壇したのはナイキの森本氏です。「ロールモデル」と題し、前日の「スポーツ関係者向けのワークショップ」の内容を若年女性リーダー向けにアレンジして話しました。

初日の最後は、重量挙げ金メダリストのPawina Thongsuk氏とテコンドー銅メダリストのChanatip Sonkham氏によるトークショーを実施。野口氏が進行を務めました。Pawina氏は体育の先生の勧めで14歳から重量挙げを始め、2004年アテネオリンピックで金メダルを獲得。競技者の80%が男性だったので、自分が始めれば先駆者になれると思ったと語りました。Chanatip氏は、中学1年生の頃に選手を見て憧れたのがきっかけでテコンドーを始めました。先輩たちに憧れ、競技を引退した今も交流があるそうです。二人とも、現役時代の練習環境は厳しかったが、性被害や外国人指導者との文化の違いによる問題などはなかったときっぱり。競技で成功を収めたことについて、Pawina氏は成功の秘訣は「競技を好きであること、真面目に鍛錬すること、母や指導者の後押しもあった」と話し、「勝ち負けにこだわらずリラックスして取り組んでほしい」とメッセージを送りました。Chanatip氏は「自分を信じること。勝負に固執せず、いろんなパスウェイを模索してください。ずっと応援しています」と、参加者に勇気を届けました。



左から、Pawina Thongsuk氏、Chanatip Sonkham氏



ゴールを決め、喜びを体いっぱい表現する参加者たち



左から、繁浪由希氏、井上由惟子氏



屋外でアクティビティを楽しんだことで緊張もほぐれたよう

参加者インタビュー Ms. Phattarawadee Chakbodin

タイ国立体育大学

今回のワークショップに参加して、とても感動しました。タイの参加者や日本のチームから様々な意見と経験を聞いて学べたことは、とても意義のあることでした。身体を動かすアクティビティもとても面白く、特に、サッカー場のアクティビティが楽しかったです。これからは、私をもっと子どもや女性のスポーツ参加の機会を増やし、健康の大切さを伝え、スポーツ参加率を上げていきたいと思います。

■ 2日目(2月1日)

2日目は体を動かすアクティビティからスタート。一般社団法人 S.C.P. Japan理事の繁浪由希氏が指揮を執り、ボールを使って楽しく動きながら和やかなムードを作りました。

最初の講義では、井上氏が登壇。セーフゲーディングについて、若い参加者たちにもわかりやすくプレゼンテーションを行いました。安心・安全を担保するために、講義の冒頭でも対等な関係性を大事にする、相手を批判しないなどの「約束ごと」を丁寧に提示。スポーツにおけるセーフゲーディングについて説明し、組織は「周知」「予防」「報告」「対応」に取り組むこと、個人は権利や脅威を知って行動することが大切であるとしてしました。また、54ある子どもの権利条約についてはゲームを交えて紹介。子どもの権利を脅かすあらゆる形態の暴力・差別・不当な扱い等は決して容認されてはならないことを伝え、そのことを踏まえスポーツ現場ではどのような危険性があるかをグループごとに考えました。参加者たちは、指導者からのハラスメントや暴力、大人が特定の個人やチームだけを最優先するなどといった、経験に基づくエピソードをシェア。井上氏は、「一人で立ち向かえないときには誰かに相談を」と呼びかけました。

午後は再度アクティビティから開始。音楽と共に体を動かした後、森本氏が指揮を執って「自分の『声』を使って社会を変える」のワークショップを行いました。グループ発表では、体格差・能力差といった男女の障壁と、それに合わせてルールを変える、男女で一緒にできるスポーツをもっと作るといった解決策を全員が発表。文化や価値観の違いといった障壁に関しては、インフルエンサーやSNSを駆使した啓発や、本ワークショップ開催を含む教育における解決策を求めました。様々な障壁に対してどんなアプローチがあるかを考え共有する貴重な機会となったワークショップ。最後に森本氏は、「自分自身が自分の味方になってください。その上でルールや仕組みに疑問を持つと、解決策が見つかると思います」と呼びかけました。

こうして、若年女性リーダー向けのワークショップも終了。講師陣が一人ひとり挨拶し、感想と感謝を述べました。クロージングセッションでは野口氏とNiwat氏が登壇。野口氏は「私たちがタイのことをたくさん学ぶことができました。タイの女性がもっとスポーツを楽しむように、皆さんの力を発揮してください」と呼びかけ、2日間のワークショップを締めくくりました。



©Public Relation Sub-Division, Department of Physical Education of Thailand



登壇者からの呼びかけに挙手で応える



一つの机を囲んでグループワーク



発表する場面では、グループごとの個性が見えました

参加者インタビュー

Mr. Thanadon Songraksa

シーナカリンウィロート大学

私は大学生なのですが、学部で様々な活動を行う機会があります。今後、今回のワークショップで学んだジェンダー平等についての知識を使って、もっと女性が参加できるアクティビティを行い、女性も楽しく参加できるスポーツで、平等を支援する活動を行いたいと思います。まだ悩んでいる女性はいるかもしれませんが、安心して参加できると思ってもらいたいです。同じ人間なので、男女は関係なく、誰でもスポーツを楽しめると思います。

4.今年度の成果と次年度以降への期待



■今年度の成果

2022年度は、事業初年度かつ開始時期が10月だったため、短期間で実施せざるを得ない状況でした。しかしながら、今後の4年間の土台固めとして有意義な事業を実施できたと思います。

まず、ASEAN事務局と密な連携を取り事業が進められたことは大きな成果です。5年計画で事業を進めていく上で、ASEAN事務局と連携を強化することは非常に重要でした。ASEAN事務局が各国との連絡窓口となってくれることで、各プログラム自体を日ASEANスポーツ大臣会合の枠組みで実施していることが強調され、ASEAN10か国に対して、日本のサポートが可視化できたと考えます。各国への個別連絡の際も、それぞれの国との最適なコミュニケーション方法をASEAN事務局に相談できたことで、コミュニケーションを円滑に進められました。

また、5年間の計画を日ASEANスポーツ高級実務者会合及び日ASEAN女性スポーツ会合にて共有し、承認をいただけたことも今年度の成果といえます。事業計画に承認を得られたことで、今後の各国へのフォローアップ事業が実施しやすい環境となりました。

フォローアップ実施の最初の国として、タイ政府と2021年「ASEAN-JAPAN Workshop on Promoting Gender Equality in Sports」時に定めたアクションプランに合わせた事業が実現できたことも大きな成果であると考えます。日ASEANスポーツ大臣会合の議長国であるタイ政府がリーダーシップを執り、時間がないなかでも様々な課題を乗り越え実施できたことは、大きな自信となりました。これから続く他の9か国が、自国でワークショップを開催する際に具体的なイメージを持つことができると思います。

実際のフォローアップワークショップは、スポーツをジェンダーの視点で捉えること、女性のスポーツ実施率向上のためのロールモデルの活用、また女性や女児のスポーツ参加や継続の疎外要因となり得るスポーツ現場に見られる人権侵害やセクシュアルハラスメントなどに関するプログラムとなりました。特にタイのスポーツ関係者は、スポーツを「ジェンダーの視点で捉える」ことがこれまであまりなかったように感じました。スポーツ参加率や競技大会の男女の出場数、女性リーダーの人数、メダル獲得数などの定量的な平等についての視点はこれまでも持っていたものの、メディアで女性アスリートがどのように表象されているかや、構造的なジェンダーの不平等、ハラスメントについての実態は、可視化されてこなかったように感じました。

今回のフォローアップワークショップを通じて、スポーツをジェンダーの視点で捉えることで、これまで当たり前とされてきたことを批判的視点で捉え、お互いに話し合う時間が作れたことは有意義でした。若年女性リーダー向けのワークショップに関して、子どもの権利条約の話やセクシュアルハラスメントの話など、これまでスポーツのなかで話題にならなかったことを考えるきっかけになったようです。さらに、グループディスカッションを取り入れたことが、参加者が意欲的に取り組めた要因であったと、実施後のアンケートからもよくわかりました。

2022年11月に開催された第8回IWG世界女性スポーツ会議には、タイ政府とASEAN事務局の関係者が出席し、国際会議でASEAN諸国の取組を発信する機会となりました。ASEAN各国政府の取組は、他の地域の発表と比較しても非常にユニークなものでした。アジアやアフリカ地域からの参加が少なかった今回の国際会議において、タイ政府とASEAN事務局からの発表は、アジア地域の取組事例を発信する良い機会となりました。

■次年度以降への期待

今回、ASEAN10か国すべての国に対して第8回IWG世界女性スポーツ会議へのオンライン参加をサポートしました。事業受託から11月の会議までの期間が短く、IWG事務局からの発表時間の確定も直前であったこともあり、また、時差の関係で、本事業の発表タイミングが東南アジア諸国のベストな時間帯にならなかったことが残念な点でした。幸い、オンデマンド視聴ができたことで、各国の参加を保障することができましたが、実際に現地に足を運び、参加者との交流や国際会議の雰囲気などを体感することで理解が深まることもあることも実感しました。引き続きこういった国際会議の機会を活用し、本事業や各国政府の取組を発信する機会にしていくことが必要であると考えています。

タイ政府とフォローアップワークショップが実施できたことで、ASEAN各国の政府と事業を実施することの難しさなども実感しましたが、政府関係者と共に開催することで、参加者のモチベーションが高く、エンゲージメントの高いワークショップとなりました。一方で、スポーツ施策の多くが政府の資金で運営されている場合、スポーツ現場を批判的に考察して、課題を見つけることが難しい側面も見られました。参加者の心理的安全や自由な発言を保障する場を整えることは、国外の事業パートナーだからこそできることだと思います。日本の立場が、ASEAN諸国のスポーツを通じたジェンダー平等を推進する利点になるように、フォローアップ開催国とのコミュニケーションをより深く取っていく必要があると感じました。

スポーツを通じたジェンダー平等推進事業
ASEAN-Japan Actions on Sports: Gender Equality
成果報告書

発行日: 2023年2月28日

発行: 順天堂大学女性スポーツ研究センター
〈サテライトオフィス〉

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

デザイン: 有限会社イノセンスグラフィック

作図・レイアウト: 株式会社デュナミス



令和4年度スポーツ庁委託事業
ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業(スポーツを通じたジェンダー平等推進事業)

